

令和7年産 コシヒカリ栽培指導基準

JA名：魚沼 地区：小千谷基幹営農センター

- この栽培基準は、安全・安心で高品質・良食味米を生産するために、地域の実態に即してJAで作成しました。
- 使用する肥料・農薬はJAが推奨する品目ですが、推奨品目以外でも適正な品目については、使用可能です。

時期	3			4				5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	耕起	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培管理	【種子更新】 種子 温湯消毒			浸種	育苗土準備	中種子・育苗期防除	播種（乾籾140g/箱） 元肥施用（窒素3、4kg）	代かき	中田植（病害虫箱施用防除）	水田除草剤散布	中干し・溝切り			（水田中後期除草剤散布）	農道畦畔の草刈	中穂肥施用（窒素1・0kg） 畦畔草刈り（除草剤散布）	下穂肥施用（窒素1・2kg）	共同防除（カメムシ・紋枯病） 葉色低下の場合は穂肥施用（窒素1・0kg）			最終かん水	収穫	土づくり資材の施用 稲わらの秋すきこみ		
肥料・農薬記号				①				②			②			③			④			④			⑤		
				A				B C			D			E			F								

※①～⑤、A～Eについて、JAが推奨する肥料・農薬は下表を参照願います。（なお、1つの記号に複数品目掲載されている場合、1品目を選択して下さい。）

■ 推奨肥料

記号	肥料名	成分 N-P-K	備考
①	育苗床土		いずれかを使用
	稚苗苗代配合 ホーネンス培土1号	4-6-5, 苦土1 1.3g-1.3g-1.3g/箱2.8kg	
②	べんとう肥	活着促進, 20g/箱	いずれかを使用
	越後の輝き有機50元肥	10-13-10	
	越後の輝き有機50スーパー元肥	12-6-5	
	プレーバーペースト734	7-3-4	
③	魚沼ロマンゲルメエース	0-6-0, ケイ酸16, 苦土10, その他微量要素	いずれかを使用
	けい酸加里プレミアム34	0-0-20, ケイ酸34, 苦土4, ホウ素他	
	とれ太郎	0-6-0, ケイ酸30, 苦土12, アルカリ40	
	スーパーシリカプレミアム	ケイ酸30, 苦土2, アルカリ40	
④	越後の輝き有機50穂肥	12-2-8	いずれかを使用
	味好2号	7-2-7, 有機100%	
	みらい有機831	8-3-1, 有機100%	
⑤	魚沼ロマンアイアンスター	0-8-0, ケイ酸12, 苦土5, 鉄9.5, 腐植酸6	いずれかを使用
	苦土重焼燐30	0-30-0, 苦土4.5, ケイ酸9, 鉄2	
	越後の輝きソイル米スター	0-1-7, ケイ酸30, 苦土2	
	シリカリユ17	ケイ酸17, 苦土0.3, 鉄1.5	

■ 推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法	備考
		希釈倍数・散布量	使用時期	使用回数		
A	タフブロック	200倍	催芽前/催芽時	—	24時間浸漬	
B	ファーストオリゼリディア粒剤	50g/箱	床土混和/播種時(覆土前)	1回	育苗箱処理	いずれかを使用
	ブーンバディット箱粒剤	50g/箱	播種時～移植当日			
	GPオリゼリディア箱粒剤	50g/箱	緑化期～移植当日			
C	アッパレZ剤(粒・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500ml・400g/10a	移植直前/アッパレZは移植前1日～10日、アッパレZは移植後3日まで	1回	本田散布	いずれかを使用
	ウィニングラン剤(粒・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500ml・500g/10a	移植直後～/ビエ2.5葉期, 移植後30日まで			
	ベッカク剤(粒・豆つぶ・ジャンボ)	1kg・250g・250g/10a	移植直前/アッパレZは移植前1日～10日、アッパレZは移植後3日まで			
	カウンスルエナジー剤(粒・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500g・400g/10a	移植直後～/ビエ3.5葉期, 移植後30日まで			
D	クリンチャー剤(粒・ジャンボ・EW)	1kg・1kg・100ml/10a	移植前1(10aのみ20)日～10日(10-15)葉期, 収穫30日前まで	2回以内	本田散布	発生次第
	バサグラン剤(粒・液)	3kg・500ml/10a	移植後15日～収穫45日前まで	2回以内	畦畔散布	
E	バスタ液剤	薬量500～1,000ml/10a	収穫7日前まで	2回以内	本田散布	いずれかを使用
	ラウンドアップマックスロード	薬量200～500ml/10a	収穫前日まで	2回以内		
F	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	本田散布	いずれかを使用
	スタークル液剤10	1,000倍・150L/10a				
	スタークル粉剤DL	3kg/10a				
	スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫14日前まで	5回以内	本田散布	いずれかを使用
	バリダシン液剤5	1,000倍・150L/10a				
	バリダシンエアー	8倍・800ml/10a				

■ 栽培管理のポイント（長岡地域水稲重点技術対策より）

- 土づくり・施肥
 - ・ 稲の根の分布を拡げ、健全な発達を促すため、耕深15cmを目標に丁寧な耕うん作業を行いましょう。
 - ・ 土壌診断に基づいて堆肥や土づくり資材を施用しましょう。特に、有機質入り肥料を用いる場合は、堆肥等の施用を併用して後期栄養の維持を図りましょう。
- 播種・田植え
 - ・ 高温障害を軽減するため、出穂期が8月8日以降となるよう播種期は4月20日以降、田植期は5月10日以降にしましょう。
- 水管理
 - ・ 田植後は3～4cmのやや深水で植え傷み防止、活着後は2～3cmのやや浅水で分けつを促進し、早朝入水、昼間止水により地温上昇を図りましょう。
 - ・ 中干しは50株植えて16本/株、60株植えて14本/株（移植後30日を目安）時に実施し、出穂1ヶ月前（生殖生長への転換）までに終了し、溝切りは必ず実施しましょう。
 - ・ 中干し以降は田面が強く乾く事が無いよう飽水管理を徹底しましょう。最終かん水日は出穂後25日以降とし、止水日には可能な限りかん水を行いましょう。
- 穂肥
 - ・ 穂肥は幼穂長や草丈、茎数、葉色等の生育診断を行い、適期に適量を施用しましょう。
- 収穫
 - ・ 出穂後の積算温度や籾の黄化程度を確認し、適期に収穫しましょう。（適期の目安：出穂後日数35～40日、積算温度950～1,000℃）
 - ・ 登熟期が高温の年は刈り遅れのないように収穫し、ゆっくり乾燥して胴割粒の発生を防ぎましょう。
- 選別
 - ・ 1.9mmのふるい目を用い、適正な流量で丁寧に選別を行い、色彩選別機を有効活用し、品質を高めましょう。

■ 栽培記録カード記帳について

- ・ 栽培管理における各作業日や、肥料・農薬の使用日・使用量等は栽培記録カードへ記帳しJAへ提出して下さい。（栽培記録カード等はJAにて5年間保管します。）
- ・ 栽培記録カード等の提出時期は1回目：8月、2回目：11月です。
- ・ 栽培記録カード記帳とあわせて、種子の保証書や生産資材の購入伝票を保管しましょう。

■ JA米の取り扱いについて

- ・ JA米と一般米は区分して収穫・出荷をお願いします。
- ・ JA米として出荷された米穀は、JAでの確認後JA米印が押印され、一般米と区分して取り扱われます。
- ・ なお、JAの確認により、JA米の要件を満たさないと判断された米穀は、一般米として取り扱われます。